

AJU「わっぱ通信」

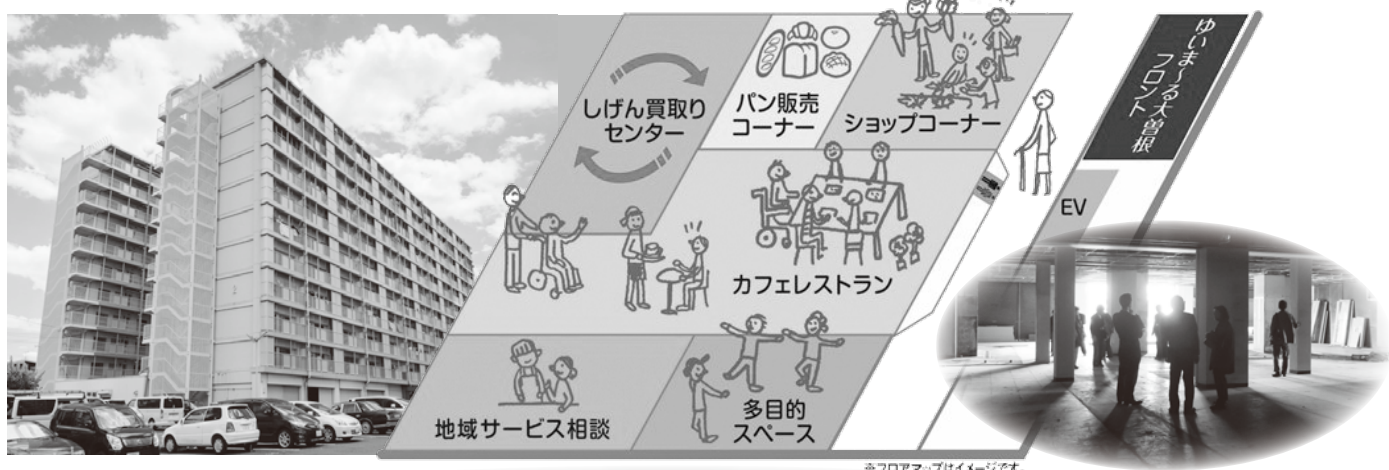
コミュニティ Vol.38

特集 大曽根新事業が始まる!

「コミュニティ」とは、エスペラントで共同体を意味します。

大曽根新事業が始まる!

(仮)「ここからの風おおぞね」



※フロアマップはイメージです。

2017年、県の大曽根住宅の一部がサービス付き高齢者住宅に作りかえられ
2018年4月、その1階の大型店舗(旧ナフコ跡)がわっぱの会の手で新たに誕生!

新たな事業

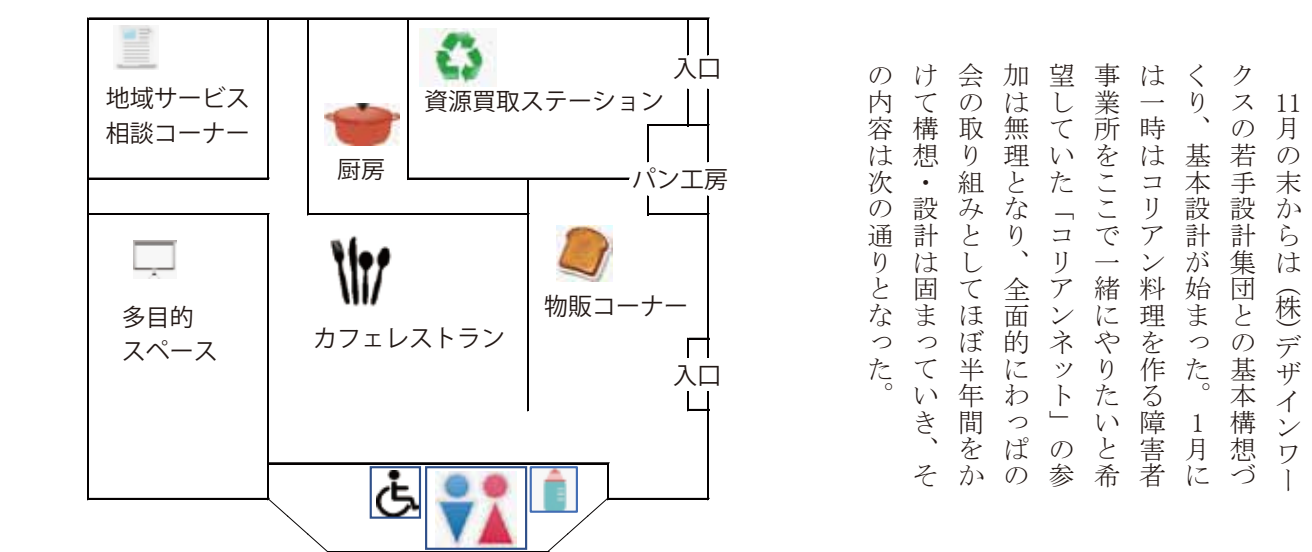
わっぱ共生共働センター(名古屋
市北区大曽根)からほぼ北に1km
の所にある大曽根住宅(県公社管理)
の1階店舗(約1000㎡)を借り
て事業運営をするという話が出てき
たのは2016年5月末。(株)コミュ
ニティネットという高齢者の住宅づ
くりに取り組んできた会社からの話
である。

一昨年(2015年)の総会以後
始まった「社会的事業所委員会」で
は新たな起業の可能性を探り、各地
の事業所見学を行ってきた。中でも
愛知県津島市にある「しげんカフェ」
という場所は資源のリサイクルとカ
フェ事業が結合し、そこが市民交流
の場となっており、大変興味深い取
り組みであった。しかしこれを名古
屋でやるには広い場所が必要であり、
大曽根周辺でそんな場所が確保でき
るかと思案していた矢先であった。

実はそれ以前、高齢となった障害
ある人の活動場所を探していた時に
一度勧められたのがその場所であり、
その時は広すぎると目もくれなかつ
た所である。だから半分ほど使える
ならとすぐに飛びついたのである。
コミュニティネットは大曽根住宅
の空き部屋70戸を使っている分散型

サービス付き高齢者住宅への企画に応募するという、ひいては1階の大型店舗も同時に貸借することが条件になっており、そこで事業をやってくれる団体を募集していた。わっぱの企画案を取り入れた8月半ばの応募は一団体のみで、9月には正式にサ高住の計画が進み出すことになった。9月以後はわっぱの会以外の団体から明確な企画も出てこず、大型店舗全体を使った企画へとその後突き進むこととなった。

当初は「しげんカフェ」を新たに作り、既に一杯になっていたわっぱの会の障害ある人、生活困窮で社会的孤立におかれている人の働く場を拡げようということだったが、こ



11月の末からは(株)デザインワークスの若手設計集団との基本構想づくり、基本設計が始まった。1月には一時はコリアン料理を作る障害者事業所をここで一緒にやりたいと希望していた「コリアンネット」の参加は無理となり、全面的にわっぱの会の取り組みとしてほぼ半年間をかけて構想・設計は固まっていき、その内容は次の通りとなった。

5ゾーンで構成(図参照)

- ① 資源買取ゾーン
- ② カフェレストランゾーン「しげんカフェ」
- ③ 販売ゾーン(わっぱん焼き立てコーナー)
- ④ 地域サービスゾーン(福祉、生活、健康、就労相談)
- ⑤ 多目的スペースゾーン(セミナー、文化・健康教室、イベント各種)

①の資源買取センターは家庭にある資源を行政や業者の無料引き取りでなく、有料で買い取るという現代版「まちのクズ屋さん」の復活。それを市民参加の新しいシステムとしてやるうとしている。現金でも買えるが、倍の価格のポイントを出し、それを隣のカフェレストランで使ってもらおうという仕組みになっている。資源の中からリユースできるものを販売する「リユースショップ」やおもちゃのリサイクル、更に余っている食料のフードドライブと活動の構想はひろがる。

②のカフェレストランは「わっぱん」を使ったモーニング、昼間の日替わりランチ、そして夕食までと3食が楽しめる。カフェメニューは夏のかき

氷など季節にあったメニュー、レストランも一般的な定番メニューから珍しい料理まで工夫をこらし、高齢者や療養の人の食への配慮もしっかりと行なっていく。何よりそこが憩いとくつろぎ、そして市民交流と学びの場になればと考え、高齢者が横になれるスペースや子どもが遊べるスペースも設け、子連れのお母さんも楽しめる場となる。

③の販売ゾーンは焼き立て「わっぱん」はもとより、子ども向けの駄菓子、地域野菜のバラ売り、愛知県産の食、日常欠かせない日用品、介護福祉用品、そして市民の手作りの品、障害者事業所の良質な製品など市民が買いたくなり、かつ他にはないユニークなお店にしていける。できるだけ地域住民の要望を聞き、商品ラインナップも変えていく。

④の地域サービスはわっぱの会がやってきた障害者、生活困窮者の生活・就労相談のノウハウを活かし、高齢者、児童などの相談にもこたえることのできる相談センターになる。高齢者の就労希望にものれる職業紹介所もつくり、健康、医療面においても、漢方相談や健康測定、介助や認知症対応ロボットの活用など幅広く

い展開を考えている。そして地域の需要に応じた遺品整理や片付けから様々な修理や掃除まで何でもこなせる便利屋さんの展開もしていく。

⑤の多目的スペースゾーンは最大限に机を並べても100人が入れるスペース。3分割することもでき、それぞれ小さな催し物から全体を一つにしたイベントまで多様に行える。ステージ、スクリーンも設け、ちよつとした発表会から映画会までもできるようになる。パン教室や料理教室もできるようにし、市民の自主的な企画のために場所を提供するし、わっぱの会としても様々な企画を提案していく。

以上、構想は広がるが来年4月にどこまで展開できるだろうか。軸としての「しげんカフェ」をしつかりと作り上げることで様々な可能性は広がる。今回の事業はわっぱの会の中のつながりだけでなく、しげんカフェの浅井さん、セントラルキッチンの中の三田さん、ハッピーネットの堀さん、アンリカフェの荒川さん、かくれんぼの水野さんなど多くの人々の協働関係があってこそ成り立つもの。自分たちの仲間の中だけでなく、本当に地域に打って出て通用する「仕

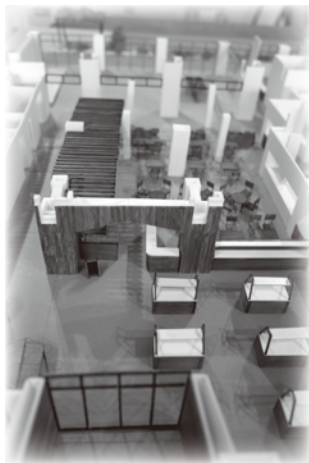
事」ができるのか、まさにその試金石となっていく。

最後にこの事業の目的を整理すると
①障害ある人、生活困窮の人、地域の高齢者など働きたい様々な人々と共に働く場をつくること。

②その働きの場が日常的な地域住民とのふれあいの中にあることを通じて、真の地域交流を実現し、差別や社会的排除をなくしていくこと。

③この場所全体が地域住民を中心に様々な人々との交流の場になることで、これからの福祉のあり方「地域共生福祉」をつくり上げること。

④地域住民の環境リサイクルや福祉活動への主体的参加を通じ、地域を活性化し、多様な人々が共生するソーシャルインクルージョンを実現していくこと。



資源リサイクル班

資源リサイクル班では、リユースショップ・リメイク工場・おもちやリサイクル・フードドライブなども行っていく予定で準備をしています。しかし、これらや資源の回収・リサイクルだけが目標なのではありません。では、何が目標なのでしょう？それは、資源の回収・リサイクル等を通じて、

@環境教育の場となる

@地域交流・活性化の場となる

@障がい者・高齢者就労の場となる
ということですが、

資源リサイクル班は、6月に立ち上がったばかり。でっかい目標を掲げて前に進んでおります。現在の活動状況としては、第一・三月曜日に班会議&勉強会を開催。勉強会では、資源カフェの浅井さんを講師にお迎えし、「ゴミとリサイクルの概論」「日本のゴミとリサイクルの歴史」などを学びました。また、8・9月には津島資源カフェや中部リサイクルが運営しているRe創庫あつたの現地研修をさせていただき、知識だけでなくノウハウも身に付けていきます。10月からは大曽根住宅内の店舗を

借りて、試験的に資源の回収を行います。日時や回収資源の種類も限定的なため、試験的という言葉を使いましたが、段ボールや新聞紙などの紙類や他にも回収しますので、皆さん今から溜めておいてください。最後にありますが、リサイクル班だけでなく新事業に関わるメンバー、外部関係者が目標達成に向けて頑張っております。新事業は「自分には関係が無い」と思わずに、少しでも力を貸してください。よろしくお願いたします。

酒井 玲

カフェレストラン班

基本方針

①全体の柱として、しげん買取センター・カフェレストラン・多目的スペースがある。これらを強化し充実させる役割としてもカフェレストランを位置づける。

②「食事」は人間の営みの中で非常に大事なもので、またコミュニケーションの重要な場面でもあるので、人々が笑顔になれるような食事作りを目指す。

広いスペースのカフェレストランの役割は大きい。毎日の食事やティータイムはもちろん、赤ちゃんからお年寄りまで気軽に集える場所、くつろげる場所をつくっていく。

カフェレストランの特徴としては大きな鉄板がある事！鉄板といえはお好み焼きや焼きそば、又はステーキを思い浮かべるかもしれないが、そうではなく、調理道具として、パフォーマンスとして使っていく。目で見て楽しめて食べて楽しめる♡そんなカフェレストランを目指している。

朝のモーニングから始まり、日替わりランチ、ティータイム、夏にはかき氷、夕食など、毎日朝・昼・夕も通いたくなるようなメニューを考えている。みんなが行きやすい価格設定にするため、材料や調理工程などを工夫する。

カフェはわっぱの各事業所と連携しながら作り上げていく。パンはわっぱん、うどんは名古屋職業開拓校、ドレッシングはわっぱ知多農場、パスタソースはわっぱのはん等、得意分野を生かしていければより良いものが出来るだろう。わっぱの事業所だけでなく、顔の見える関

係を作っていくことで、お客さんも安心して食べられるものを提供している。

名古屋には数えきれないほどの喫茶店がある。ファミレスもある。親子カフェも増えてきた、歩いてすぐのところにもコンビニもある。そんな中で「ここがいい!!」と言ってもらえるような空間づくりを考えていきたい。

多目的スペースとの連携や、各イベントなどにも対応できるようにもする。販売スペースに並べるお弁当や、惣菜もここで作る。

そして、地域への宅配弁当も始める。わっぱのはんでの経験をもとに、おいしくて安全な手作り弁当を届けたい。宅配弁当に関しては10月のプレオープンと同時に開始する予定なので、どんどんお客さんにアピールして、SNSも利用してカフェレストランでの可能性を広げていきたい。

リー・ヨンジャ

販売部門

大曽根新事業の店舗全体の集客の柱は、しげん買取センター、カフェレストラン、多目的スペースという軸がありますが、それを更に強化し充実する役割が販売事業・地域サービスにあります。また、販売は店舗で客を待つだけでなく、積極的に周辺地域を対象とした販売活動を行わねばなりません。

販売部門の中心はパンの販売です。それに「わっぱのはん」の総菜、「わっぱ知多」やその周辺の農家さんの野菜など、食品販売がメインとなります。

大曽根住宅の地域は高齢者世帯が多く、誰もが「高いものは売れない」と言います。これまでのわっぱんは値段が少々高くても安心・安全をうたい文句にして無添加・無農薬にこだわって来ましたが、販売ショップは広範囲の客を対象としつつも対象は地域住民であり、地域住民が買いやすい価格設定にする必要があります。できるだけ大曽根住宅及び周辺住宅の人たちが買いたくなるものを置く、というのが基本だとは思いますが、果たしてこれが何か？というのが一番の問題です。

まだ「案」の段階ですが、駄菓子屋さんをやったら楽しいね、という案もあります。他には、洗剤・トイレレットペーパーなどの生活必需品（大きなもの、重いものはお年寄りが運びにくい）、アイスクリームの販売、飲み物・菓子、ひょうたんカフェの豆腐、共同連の商品、福祉施設の送品で売れそうなもの、福祉用品などが候補にあがっています。

当初、コンビニをやるうという意見もあったのですが、コンビニ本部に月々の支払いが掛かりますのでこれはあきらめました。

イトインコーナーでは揚げたてのカレーパン、ピロシキに加え、ホカホカの焼き芋はどうかという声もあります。

また、「わっぱのはん」のお弁当・総菜を宅配するサービスも考えています。



坪内 美恵子

地域サービス

新事業は、わっぱの会が求める、障害のある人ない人や社会から排除をされた人が共に働く場所を作っていくのは当然であるが「地域の高齢者・子ども・子育て家族等々の人が気軽に集える場所」をどのように作るかである。ただ、誰でも集える場は、カルチャーセンター・スパ等々の客集めでもよく使われる発想である。

長年、障害者の相談センターを行ってきた私は、障害だけの相談に限界を感じ、数年前にわっぱの会が行っている、各場の年間行事計画に、しっかりとイメージではなかったが、総合相談センターにしていきたいと書いた記憶がある。

こんな中、大曾根の「ここからの風おおぞね」が地域の集まってくる方々に対する、生活困窮・高齢・障害・子ども・等々との色々な課題の総合相談窓口を創って行かないと、営利企業の客寄せの場と同じになってしまう可能性がある。

現在、厚生労働省は、「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部をつくり、公的な福祉サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる

「地域共生社会」を実現、公的な福祉サービスへのつながりを含めた「丸ごと」の総合相談支援の体制整備を進めていく必要があるといっている。

昔は、お寺・神社・大衆浴場・祭り準備等々で集まってきた方々が互助の中で、ある意味での相互扶助(総合相談等も含め)が出来上がっていたかも知れない。

厚生労働省が言う「地域共生社会」を乗り越え、過去の地域共同体も参考にしながら「地域共生・共働社会」実現したいものだ。



羽田

大曾根新事業年表

2016年	5月	コミュニティネットより大曾根住宅大型店舗活用の話
	6月	大曾根住宅研究会に初参加
	8月	わっぱの会で第1回大曾根新事業企画会議
	9月	住宅&店舗改修企画が決定
	11月	店舗改修設計初打ちあわせ
2017年	1月	新事業拡大企画会議始まる
	3月	サ高住(ゆいまーる大曾根)改修工事始まる
	4月	コミュニティネット事務所開設
	6月	新事業準備室および準備各班始動 サ高住内覧会始まる
	7月	仮名称「ここからの風おおぞね」決まる(略称ここぞね)
	8月	実施設計終了、改修工事準備
(以下予定)	10月	ゆいまーる大曾根(40戸)入居開始 「ここぞね」先行的準備事業大曾根住宅で開始 ゆいまーる大曾根&ここぞねオープンパーティー 店舗改修工事着工
2018年	3月始め	改修工事竣工、開店準備
	3月中頃	新事業開所イベント
	4月	大曾根新事業本格オープン